

都市みらい通信 IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development



【目次】

・ 第 54 回理事会及び第 38 回評議員会の開催	P 1
・ 普天間飛行場跡地利用計画／第 8 回県民フォーラムの開催	P 2
・ 札幌市地下空間利用事例調査について	P 4
・ 機構の活動状況	P 6

§ 第 54 回理事会及び第 38 回評議員会の開催

去る 3 月 21 日、第 54 回理事会を都市計画会館会議室において開催いたしました。当機構理事長挨拶、国土交通省松井技術審議官の来賓挨拶の後、議案が審議され、平成 24 年度事業計画（案）・及び収支予算（案）の議案については原案どおり議決、承認されました。

また、報告事項として平成 24 年 4 月 1 日より、一般財団法人への移行についての報告がありました。当日の議題は以下のとおりとなっております。

○理事会

議 案 1. 平成 24 年度事業計画（案）及び収支予算（案）

報告事項 1. 一般財団法人への移行について

去る 3 月 21 日、第 38 回評議員会を都市計画会館会議室において開催いたしました。当機構理事長挨拶、国土交通省松井技術審議官の来賓挨拶の後、議案が審議され、平成 24 年度事業計画（案）・及び収支予算（案）の議案については原案どおり議決、承認されました。

また、報告事項として平成 24 年 4 月 1 日より、一般財団法人への移行についての報告がありました。当日の議題は以下のとおりとなっております。

○評議員会

議 案 1. 平成 24 年度事業計画（案）及び収支予算（案）

報告事項 1. 一般財団法人への移行について



§ 普天間飛行場跡地利用計画／第8回県民フォーラムの開催

普天間飛行場跡地利用を考える「第8回県民フォーラム」が、2月15日、沖縄県・宜野湾市の主催及び当機構を含む共同企業体（※）の運営により、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターにおいて約250人の参加者のもと開催されました。

本フォーラムは、普天間飛行場の返還後の跡地利用計画を策定する一環として、毎年1回、様々なテーマを設けて開催するもので、第8回目にあたる今回は、普天間飛行場の跡地利用計画の策定に向けて「みんなで考えよう 沖縄の未来をひらく（仮）普天間公園」をテーマに、県民・市民が共に考える「場」として開催されました。

以下にフォーラムの概要をご紹介します。

■第8回県民フォーラムの概要

テーマ 《みんなで考えよう 沖縄の未来をひらく（仮）普天間公園》

日時 平成24年2月15日（水）14：00～16：40

会場 沖縄コンベンションセンター A1 会議場（沖縄県宜野湾市）

主催 沖縄県及び宜野湾市

■プログラム

○開会

○主催者挨拶 上原沖縄県副知事及び佐喜眞宜野湾市長

○基調講演 《公園・緑地による国づくり～シンガポールの国家戦略（ガーデンシティ）～》

・講師 稲田純一氏（株式会社ウイン代表取締役）

○パネルディスカッション

・コーディネーター 池田孝之氏（琉球大学名誉教授）

・パネリスト 稲田純一氏（株式会社ウイン代表取締役）

宮城邦治氏（沖縄国際大学総合文化学部教授）

山口洋子氏（有限会社 MUI 景画）

又吉信一氏（宜野湾市軍用地等地主会会長）

○フロアーとの意見交換

○終了



数日前に初当選された佐喜眞宜野湾市長のご挨拶



熱心に聞き入る参加者



■基調講演

講師の稲田氏はシンガポール政府からの招聘によりシンガポールが国家戦略として進めてきた「ガーデンシティ」の取組みに深くかかわられたランドスケーププランナーで、資源のないシンガポールを短期間のうちに最先端の国家へと成長させた国家戦略を、現地の映像や最新の公園の動画を交えて熱烈に語られました。

「ガーデンシティ」とは、単に美しい景観を目指すのではなく、酷暑の中でも緑を通じて生活者、来訪者に快適な環境を提供し、これをインセンティブにして海外から優秀な人材、豊富な資金を呼び寄せようという、長期的かつ戦略的な取組みであり、そのために、埋め立てによって国土を創生し、そこに緑を

先行的に整備し、緑が豊かに成長し付加価値が高まった段階で最先端の土地利用を図る、というもので、アジアに開かれ、アジアに顔を向けている沖縄にとっても大いに参考になる発想として、聴衆も興味をもって聴き入っていました。



■パネルディスカッション

普天間飛行場は、琉球石灰岩の台地上にあり、地下水脈、希少生物、歴史・文化、緑が残された現在の沖縄でも特別で価値が高い地域であることから、参加された各パネリストはこれらの資産を残し、活かし、将来の沖縄の発展に繋げようという視点から、跡地利用全体のあり方について、その中でも大きな役割が期待される大規模な広域緑地（仮称普天間公園など）について、「市民、県民による自発的創造を理念とした自然環境と歴史的特性を活かした都市公園を」（宮城氏）、「宜野湾市の環境特性を活かした水系環境都市の実現を」（山口氏）、「（仮）普天間公園を国営公園として誘致を」（又吉氏）などと、それぞれ熱心に語られました。



■フロアーとの意見交換

最後に、フロアーの参加者とパネリストの間で、質問、意見交換などが交わされ、参加者からは沖縄の地域振興に繋げて欲しい、かつての「並松街道」を再現して欲しいなどの意見、要望がだされました。

※共同企業体：(財) 都市みらい推進機構、玉野総合コンサルタント (株) 沖縄事務所、(株) 日本都市総合研究所、(株) 群計画



§ 札幌市地下空間利用事例調査について

2月28、29日の両日に亘り、昨年3月11日に開通いたしました地下歩行空間をはじめ、接続しているオーロラタウン地下街、ポールタウン地下街等の現地調査を開催いたしました。

○大通バスセンター

大通バスセンターは、昭和49年2月8日（市第77号）に決定（種別：バスターミナル）、位置は札幌市中央区南1条東1～3丁目で、面積は約0.63haです。

昭和50年に札幌市交通局が、丸紅不動産（株）から大通バスセンタービルの一部を寄付受領、札幌市交通局の市営バス事業廃止に伴い、平成17年に札幌市市民まちづくり局に移管されている。

施設概要は、土地は2,661.62㎡、建物は大通バスセンタービル（地上8階地下2階建）1号館（西側）と地上部で中通を挟んで2号館（東側）であり、そのうち6,547.66㎡（概ね地下2階～1階）、土地は札幌市所有、建物は丸紅不動産（株）と区分所有（割合丸紅不動産（株）78.7%札幌市21.3%）である。（平成17年7月1日から平成47年6月30日までの30年間）

バスの利用状況は、地下1階全9バスのうち現在5バスを使用、地上1階全4バスのうち現在2バスを使用しており、バス便数は、路線バス1日約150便、都市間バス1日約10便です。

大通バスセンターは、車道中央部から地下へのバスの乗入車路等（道路占用部分5,127.20㎡）が整備されており、市営地下鉄東豊線大通駅や東西線バスセンター駅に地下通路（道路占用部分）で連絡する交通施設です。なお、斜路にはロードヒーティングによる路面凍結防止対策がなされています。



○地下500m 美術館

2011年11月3日の文化の日に「札幌大通地下ギャラリー 500m 美術館」として誕生、オープンから半年間は、札幌を代表するアーティストの作品が数多く展示されています。

地下鉄東西線、大通駅とバスセンター前駅の各エントランスには特殊加工した錆仕上げの鉄を仕様。42インチのモニターを大通駅側に4面、バスセンター前駅側に2面を配置しており、展示は強化ガラスで囲まれた横幅12メートルの展示空間が7つと、10区間に分かれた白のコンポジットパネル（平均横幅13メートル）で構成されている。



○オーロラタウン地下街

オーロラタウン地下街は、昭和46年11月16日に開業、地下街規模は約33,650㎡であり、大通西4丁目と大通西1丁目にあるさっぽろテレビ塔を結ぶ地下街である。延長312m。西端に地下鉄南北線・



東西線の大通駅があるほか、オーロラスクエアは地下鉄東豊線大通駅との連絡通路となっている。また、オーロラタウン東端からさらに歩行空間を介して、東西線バスセンター前駅と連絡しており、この間には地下500m美術館が設置されている。大通公園の直下であり、地下2階は駐車場になっている。地下街は丸井今井本店などとも直接接続している。



○ポールタウン地下街

ポールタウン地下街は、昭和46年11月16日に開業、地下街規模は約14,230㎡であり、大通西4丁目（地下鉄南北線・東西線大通駅）と南4条西4丁目（地下鉄南北線すすきの駅）を結んでいる地下街である。延長400m。国道36号（札幌駅前通）の真下、地下鉄南北線の真上に位置する。地下でバルコ札幌店、4丁目プラザ（4pla）などと直結し、また狸小路と交差している。地下鉄大通駅構内を介してオーロラタウンと接続している。AIR DOの札幌営業カウンターやHTBコーナーもポールタウンの中にある。また、大通駅側の入口付近には大型ビジョン「HILOSHI」が設置されている広場があり、市民の待ち合わせ場所となっている。



歩行者通行量の増加による売上げの増加もオーロラタウン地下街同様、期待されている。

○札幌地下歩行空間

札幌駅前通地下歩行空間は、行政計画上の位置づけとして、平成12年1月策定した第4次札幌市長期総合計画において、「札幌駅前通」を都心の骨格軸の一つと位置付けている。平成14年6月策定の都心まちづくり計画では、「札幌駅前通」を「にぎわいの軸」として位置付けている。その後、平成17年9月策定の緑を感じる都心の街並み形成計画では、再整備等に関する基本的計画をかかげている。

地域冷暖房は、地下歩行空間の縦断方向に沿って、歩行部分の東西下部に2か所の導管ピットを配置し、導管ピット内には温水・冷水の導管を配置予定であり、地下歩行空間本体及び隣接する建物へのエネルギー供給が可能となる。また、当該事業で導管を配置することによって、都心部の4エネルギーセンターと合わせて地域熱供給のネットワークが形成され、現時点では機械室に至るまでの冷水導管のみを工事完了（その他駅前通り周辺建物にも供給中）している。

開通後の各種調査結果から、札幌駅前通（地上部および地下歩行空間）の歩行者通行量は、地下を利用する理由は、「快適に歩行したいため」が70%、「円滑に歩行したいため」が48%、「安全に歩行したいため」が31%、「地下歩行空間のイベントに興味があるため」が16%となっている。

また、利用者の約8割が「天気」や「信号」等の影響を受けずに移動できることで快適さを実感としている。地下歩行空間が快適と感じる理由としては、「天気を気にしないで歩ける」が76%、「信号や交差点がなく早く（スムーズに）通行できる」が76%、「自動車や自転車の通行がない」が34%、「歩行する幅が広く歩きやすい」が32%となっている。

さらに、札幌駅から大通までの移動時間が地下歩行空間の通行で約2割短縮（地上11分、地下9分）される他、開通前に札幌駅周辺や大通周辺のみを利用されていた方の4割以上が札幌駅と大通の間を新たに往来、行動範囲が広がったとしている。



§ 機構の活動状況

日	2月	日	3月
13	中野駅周辺まちづくりアイデア募集 第三回審査委員会	18	中野駅周辺まちづくりアイデア募集 表彰式
15	第8回県民フォーラム（普天間）	26	地中熱利用ヒートポンプを活用した低炭素都市づくり研究会 第2回会議
22	東日本大震災復興WG		

【機構関係諸団体】

《都市地下空間活用研究会》

7	国土交通省打合せ	1	名古屋 SWG
16	地下利活用分科会広島地区検討 SWG	2	地下防災勉強会
22	合同講演会	7	新宿 SWG
28	札幌市バスセンター、地下歩行空間等 見学会	9	八重洲分科会
29	札幌駅北口地下歩行空間、融雪施設等 見学会	12	事業部会・情報化推進部会
		13	大深度勉強会
		14	東京都都市整備局都市基盤部浸水シュミレーション報告
		16	企画運営委員会・企画運営小委員会・国際交流部会
		22	千代田区浸水シュミレーション報告

《アーバンインフラ・テクノロジー推進会議》

8	低炭素都市づくり研究会 WG	8	低炭素都市づくり研究会 WG
9	23年度技術論文発表と講演会（大阪）		
10	大阪駅都市基盤施設整備見学会		

《まちづくり情報交流協議会》

2	第6回企画運営委員会、第1回ウェブ情報交流部会	9	第2回ウェブ情報交流部会
		15	協議会の活動に関するアンケート調査
		28	第6回まち交大賞 全国審査委員会

(財)都市みらい推進機構

住所 東京都文京区関口1-23-6
 プラザ江戸川橋ビル201号
 電話 03-5261-5625
 FAX 03-5261-5629
 Email kikaku@toshimirai.jp

ホームページもご覧下さい
<http://www.toshimirai.jp/>

当機構は、「新しい都市拠点形成等の都市活性化に関する総合的な調査・研究、情報・資料の収集等、民間の技術と経験を活かしつつ、地域社会と調和した活力ある都市づくりの推進を図ること」を目的として、昭和60年7月29日に設立された財団法人です。

- ・都市再生整備計画事業支援
- ・都市拠点開発・都市再生支援
- ・中心市街地活性化支援
- ・低・未利用地有効活用支援
- ・エリアマネジメント企画 他